指導法研究Ｂ６グループ

学習にチャレンジすることのできる児童の育成

～導入と振り返りの工夫を通して～

㊫田代小　藤川　康平　㊨苗代小　坂野　百香　　引山小　梅村　佳乃子

新栄小　朝賀　ゆう乃　桃山小　山田　未來

１　研究のねらい

なごや学びのコンパス（2023）では、「苦手なことがあっても、自分なりの関わり方や追究の仕方で取り組んでいく児童」として、「自分なりにチャレンジすることができる児童」の育成が必要であるとしている。しかし、算数を学習する児童の様子を見ると、苦手意識をもつ児童が多く、基礎的な知識を基にした問題は取り組むものの、自分にとって難しい問題に直面するとすぐに諦めてしまい、自分なりにチャレンジする様子は、あまり見られない。これは、児童が、自分なりに学習に興味・関心をもって、見通しやめあてをもつことができていないことが原因である。

本グループでは、６年生で行う単元を基に、「自分なりに学習に興味・関心をもって見通しやめあてをもつこと」「見付けた見通しやめあてにチャレンジしていくこと」に焦点を当て、研究を進める。そのためには、問題提示の工夫などを行い、学習の見通しやめあてを自らもてるようにすることが大切である。そして、自分なりにチャレンジさせるために、学習の達成度等を確認し、児童が自分のつまずきを明確にすることが大切である。これらを学習の導入場面と振り返りの場面で行うことで、「問題を解きたい！」、「問題にチャレンジしたい！」という姿を常に持ち続けるとともに、「次の活動にチャレンジしたい！」と思うことができると考え、以下の２つの手立てを講じる。

２　研究の内容

手立て①　「問題にチャレンジしたい！」と思わせるための導入場面の工夫

日常生活に即した場面や誤答を提示したり、自己選択・自己決定するためのルーブリックを活用させたりすることで、学習に興味・関心をもって自ら見通しをもったり、学習のめあてを決めたりすることができるようにする。

手立て②　「次の活動にチャレンジしたい」と思わせるための振り返り場面の工夫

自分のつまずきを明確にするためのYes！No！チャートや、振り返りカードを活用させることで、学習の達成度を確認し、本時のつまずきを明確にしたり、次時の見通しやめあてを認識したりすることができるようにする。

【参考文献】

名古屋市教育委員会（2023）「ナゴヤ学びのコンパス」